

No.	13-1-1	場所	大鹿村 小渋橋付近	次世代への継承キーワード
名称	桐の久保沢の氾濫			災害現象理解
災害現象	洪水氾濫			河川 小渋川本川
補足事項				支流

概要

小渋川流域は谷が深く、多量の降雨によってたちまち増水し、急斜面を流れて土砂を押し出した。連日の降雨によって大量の水を含んだ斜面が不安定化し地すべり・山抜けの状態を引き起こし、土石流となって小渋川の流域に大きな災害をもたらした。

●体験談：災害当時 大鹿村大河原中学校 2年生

私の家の一家と山岸の一家は、みんな火ばたをとりまいてすわった。まるくなってすわっても、だれ一人として口をひらくものはなかった。そうしている間にも雨は降り、沢はものすごい音をたてておしてくる。十時ごろ、子供と女の人には部屋へふとんをしいてよこになった。男の人たちは、ローソクを一本たてて火ばたへすわっていて、沢でものすごい音がすれば、石油玉へ火をつけて沢のようすを見に行ってきた。私たちも音がすればすぐとびおきて、みんな火ばたをとりかこんだ。お母さんたちは、私たち子供にも、「死ぬとき全部いっしょに死ぬんだから安心してねているよ。おまえたちはかりは殺さんから。」といった。

だけど、どうしてもおそろしくてねむることができなかった。

二十八日午前一時五十分。今までよりも5倍も6倍もものすごい音がしたかと思うと、「メリーメリー」と木のおれる音に続いて、物が倒れる音がした。すぐ山岸のおじさんが石油玉を持って沢を見に行った。おじさんはかえってきてから、

「どうも上甲さんの家は行っちゃったらしい。」といった。

私は、まさかと思った。そのときのおどろきは、経験した人にしかわからない。私の流された家は、私たち一家が約十年愛用してきた家なのだ。

(「濁流の子」より)

記録



大鹿村小渋橋付近。桐の久保沢の氾濫

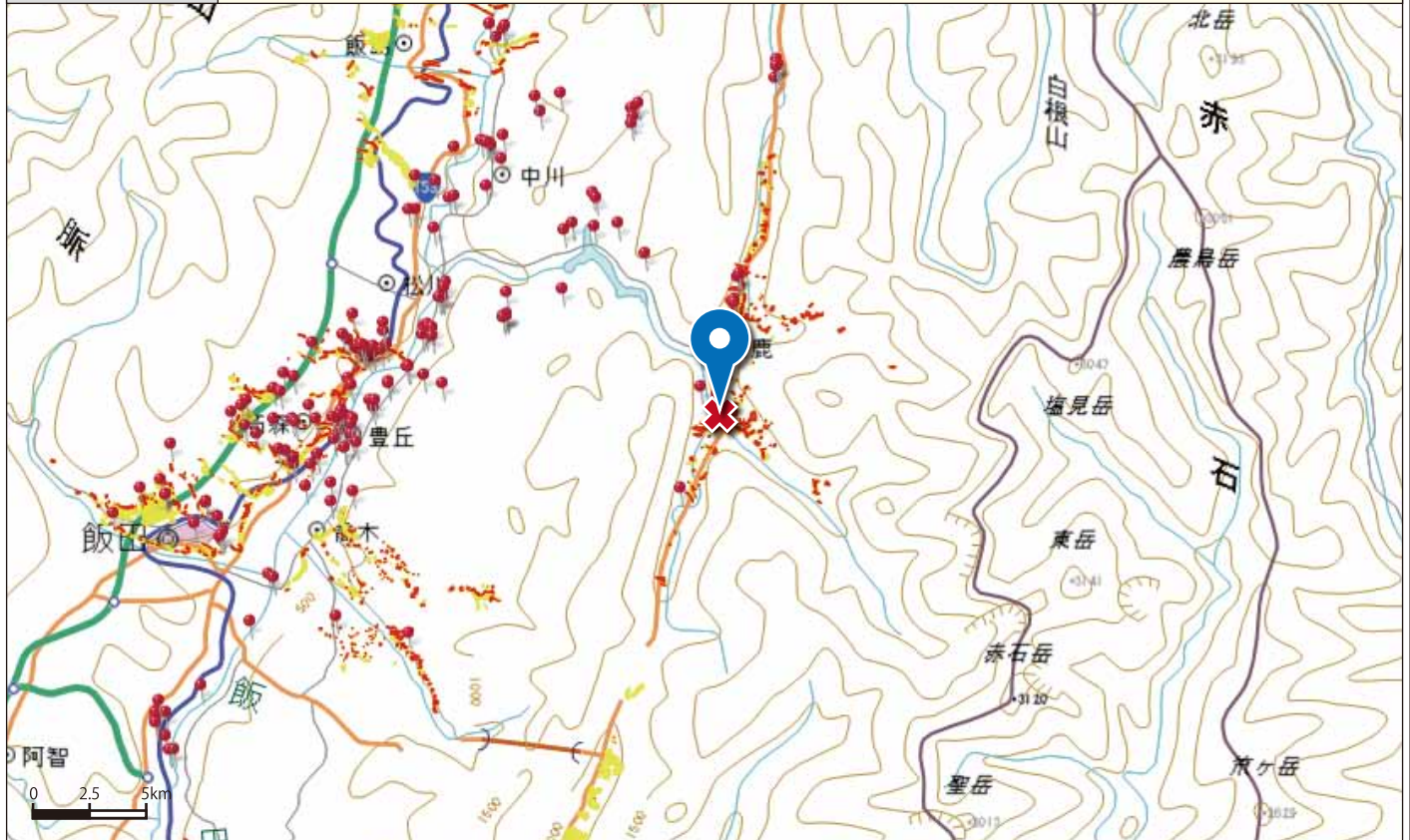
出典 「続・濁流の子」p.8/「濁流の子」p.30

備考

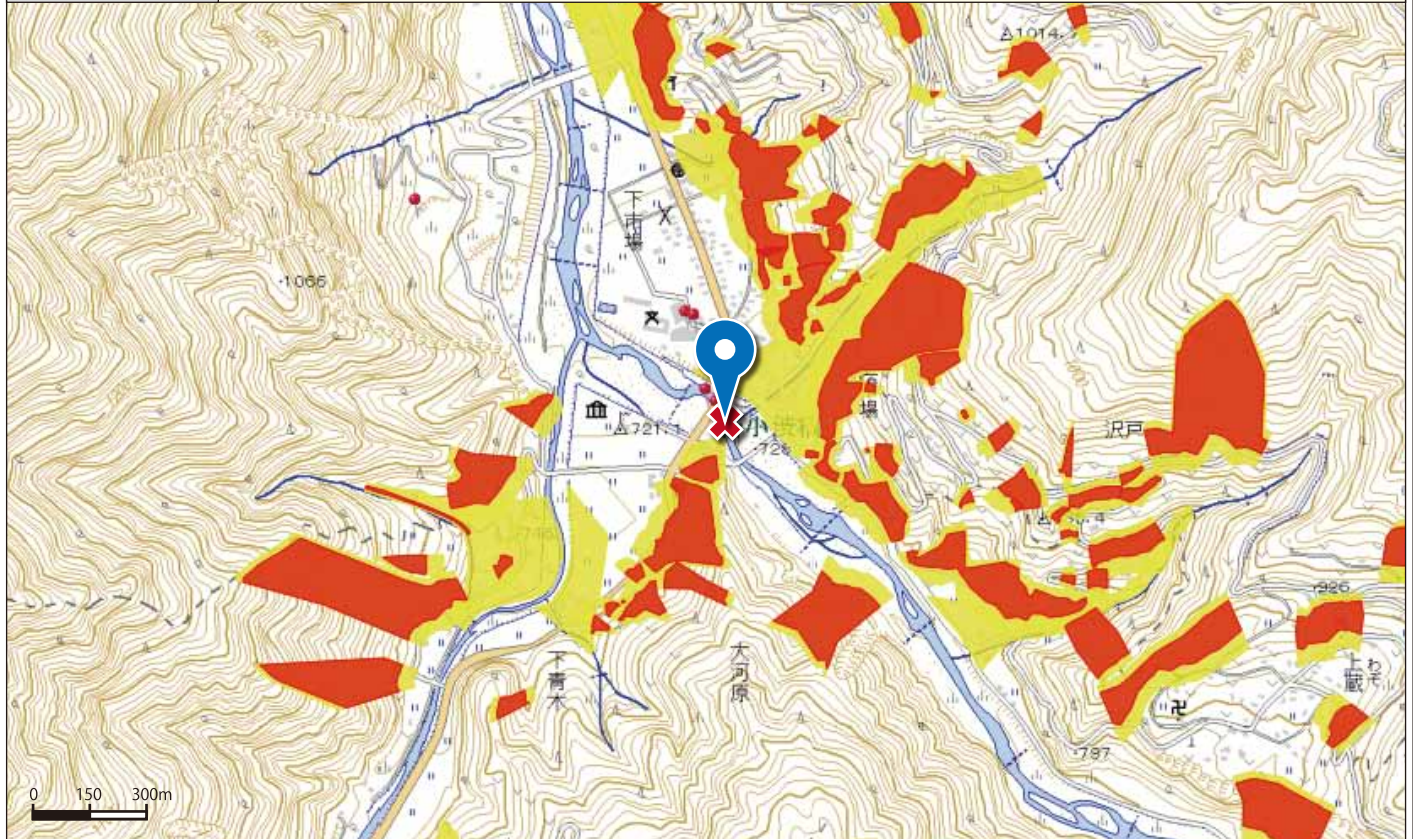
No.	13-1-1	場所	大鹿村 小渋橋付近	緯度	35.556303
-----	--------	----	-----------	----	-----------

名称	桐の久保沢の氾濫	経度	138.040853
----	----------	----	------------

地図	広域図
----	-----



地図	詳細図
----	-----



備考	上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。
----	---